

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 団体用 )

## I 基本事項

整理番号 321

事業名	南あわじ市シルバー人材センター負担金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	長寿福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 -3005		項	社会福祉費・1項	
事業分類	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	老人福祉費・3目	
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命_【健康】			
	施策目標	高齢者の生きがい活動や就業の場、癒し・消費の場を広げる			

## II Plan&amp;Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳) 南あわじ市シルバー人材センター(市内在住で60歳以上のシルバー人材センターの登録者)				構成人数(人) 564
	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	定年退職者やその他の高齢退職者の職業生活の充実、その他福祉の増進のため、シルバー人材センターの運営に対して補助金を交付する。				
	実施内容	(主な事業、活動内容等) 公共事業の補助的作業 一般企業の補助的作業 一般家庭の作業 などの活動を行っている。				
	団体の概要	(どのような団体か、活動目的、活動内容など) 地域社会に密着した補助的、短期的な仕事を組織的に把握し、提供することにより、高齢者の就業機会の増大と福祉の増進を図るとともに、高齢者の能力を活かした活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。				
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input checked="" type="checkbox"/> 補助団体	<input type="checkbox"/> 市役所	<input type="checkbox"/> 市単位 ( )	<input type="checkbox"/> 旧町単位 ( )	<input type="checkbox"/> 旧村単位 ( )
	補助金算出根拠	旧4町の補助金の合計金額				
	補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 当面は、現行どおりとし、合併後、旧4町にそれぞれあったシルバー人材センターも統合できるように調整する。(平成17年4月1日シルバー人材センター合併)					

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	11,160	11,160	10,520	10,400
	シルバー人材センター負担金	11,160	11,160	10,520	10,400
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	11,160	11,160	10,520	10,400
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	11,160	11,160	10,520	10,400
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	19.8	19.8	18.7	18.4
受益者人数( 564 )一人当り経費(千円)	19.8	19.8	18.7	18.4	
経費に関する 補足説明					

### Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 昨今、シルバー人材センターの構成や利用者も増加しており、高齢者の就業機会を確保し、生きがい創出の面からも更なる必要性が増すものと考えられる。負担金についても、国庫補助対象経費の1/2の額となるよう調整する。国庫補助額は市町補助金を限度としている点からも、この基準で負担することが適当であると思われる。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) シルバー人材センターにより、高齢者の就業機会を確保し、生きがいを創出できる。高齢化社会になり、さらに必要性が出てくるものと思われる。	自己評価 (5点評価)
		3
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 高齢者の持つ能力を活かし、地域での相互扶助を実践することで福祉社会の実現に寄与している。 また、仕事をすることで高齢者の閉じこもり予防、介護予防などの健康維持にも効果がある。 平成17年度は、旧4町の補助金の合計額を支給したが、今後は、シルバー人材センターへの補助金の額を国庫補助対象経費の2分の1となるように調整する。	評価グラフ
		<p>費用対効果 3 必要性 3</p>

## IV Action&amp;Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	国庫補助対象経費の1/2の額かつ運営補助単価限度額以下とする。市補助金と同額しか国庫補助金が算定されないため、限度額を大きく下回ればシルバー人材センターの経営にも影響を及ぼす。	同左
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の廃止の場合も記入)	<b>仮に</b> 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 負担金を廃止し、シルバー人材センターの運営が出来なくなれば、働くことにより高齢者の生きがいの創造、健康維持にもつながっていたが、多くの高齢者の就業機会が削減されるとともに、高齢者の健康維持への影響や医療費、介護予防への影響も大きくなる。	